

歩き旅、終わりました。

山一杯の梅、散るのを我慢して我慢して、私達を待ってくれました。
民宿のおじさんも、渡し船のご主人も毎日見に行ってくれたようです。
小雨の渡し舟、雨の中の渡し船も結構、絵になっていました。
きっと皆さんの頭の奥に残る名画になるでしょう。

2日間、熊野古道を歩くに加えて、見所の多い旅でした。
ゆっくり歩く旅は、ゆっくり楽しめました。

●写真

CD-R と A4 の紙に、歩き旅の写真を編集しました。
樋口さん、森塚 W が撮影したものです。

●東紀伊の案内図絵

新潟の小池さんが、大辺路の前に立ち寄った伊勢神宮で見つけた冊子です。
見やすく実用にも使える気持ちの入った素晴らしい冊子です。
三重県庁から送っていただきました。

●府県地図

大会前に和歌山県の地図を送りました。
今回は皆さんの住んでいる所の府県地図です。
昔の道が皆さんの近くにも通っているかもしれません。

周参見の駅前で、うどん一杯しか食べなかったに、濡れた靴に使う新聞紙を大量に気持ちよく頂きました。たった30キロの道に嬉しいことが多過ぎました。
友達に紀伊の旅をお話し下さい、そしてご案内ください。

さて来年は、何処に行くのでしょうか。
今年とは違って、案外見所の少ない、体力勝負だけになるかもしれませんぞ。
また来年お会い出来たらいいですね。

以前に香川県の歴史の道の本を手に入れました。

私の生まれた所が、石段で有名な金毘羅山の近くの讃岐の国。讃岐の道は見事に金毘羅山に集まっているのに、少し驚きと少し嬉しさを感じ、生まれた家の前の道が街道だと知りました。小さい頃、この道が金比羅山に向かう街道かは全く気にもせず、単に駅に行く道で、アスファルトのない「ビー玉」「パッチン」で遊べる道だった。

この道は「きゅうみち」と呼ばれていて、「新道」は田んぼの向うにありました。

街道に興味を持った頃、この「きゅうみち」が「街道」だろうと思っていましたが、金毘羅から高松までどう繋がっているかは漠然でした。本家が高松にあり毎年正月には行っていたのですが、電車の窓から見える道が、だぶんそれだろうと思うが自信がない。一度、実際に歩かなければと20キロを頑張りました。

それだろうと思っていた道は、実は「新道」がほとんどで、「きゅうみち」は別の場所にある異次元の世界、地図なしでは歩けないあつという間の20キロでした。

今、全国の歴史の道をまとめています。

香川県も久しぶりに見ました。大正時代の地図にコースを落とそうとするのですが、この大正の地図は不思議な地図です。車の少ない時代ですので道が見えてきます。町と町を繋ごうと動き出した時代を感じる地図なのです。

この地図をじっくり見ると、いつも行くお墓詣りの細い道が歴史の道だと言うのです。そして学生時代に毎日通っていた道はどこにもありません。

自分の思う道が歴史の道ではなく新道で、あの細いみちが歴史の道???

さっそく、今年の正月に帰った時にその道を踏破しました。ああ、これが讃岐の歴史の道かと感じました。それなりのfモードの揺らぐ道、すーと向うに引き込まれる道……だてに小さい頃に育っただけに、自分の思う道を勝手に歴史の道にしていました。

琴平・善通寺・多度津・丸亀・坂出

歩きました。見たこともない風景があり、見事に街道が繋がっていました。

今まで何を見てきたのだろうか。見れてよかった。寒い北風も嬉しくなりました。

みなさんの住んでいる府県の地図も作りました。

生まれる30年程前の大正時代の地図です。

ゆっくり見てください。そして歩いて下さい。

道は歩いてみなければ判りません。